肯定側立論:

資料8より、世界全体のCO₂排出量が横這いになっている事が分かる。また、割合の多くを占める中国についても同様である。加えて資料１より再生可能エネルギー導入容量が2012年からの8年間で2倍超に増えており右肩上がりであることを鑑みると、上記の傾向は続くと考えられる。したがって気候変動は止まると考えられ、私は論題を肯定する。

否定側立論:

　資料７により、中国・インドの排出量は30年で3倍以上に増加しており大きな割合を占めている事が分かる。両国は非常に人口が多く人口を合計すると世界人口の四半分を占める。更に両国は発展途上であり、経済成長率が高く発展の余地が非常に大きい。したがって、排出量が非常に多い両国の排出量を減らしていくことは困難である。つまりは世界全体での排出量を減らしていくことは困難であり、私は論題を否定する。

対肯定側反駁:

　資料２より10～19年間で原子力＋再生可能の割合は5％程度しか増加していない。資料５より世界全体の発電量は2倍増加している。よって実際は化石燃料由来の消費電力量は減少してない為、立論を否定する。

対否定側反駁:

　資料８より近年インド・中国での排出量は横這いである。資料3より、インド・中国が発展途上にも関わらず電気消費の2割を自然エネルギーが占める事から、排出量を減らすことは困難ではないと考え立論を否定する。